

No.137  
2002.  
3.31

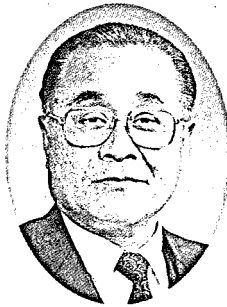
# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111  
振替名古屋637909

## 文化の薫り高いまちづくり

前大垣市郷土館館長 高木秀之



前大垣市長小倉満氏の後任として、平成13年(2001)4月小川敏氏が第13代大垣市長に就任され、市政構想(ビジョン)の第一に掲げられたのが、“文化の薫り高い大垣づくり”でした。その具現の一つが、大垣市でははじ

めての文化勲章の受賞者、守屋多々志画伯の作品を一堂に集め、展示された所謂守屋多々志美術館の開設です。画伯の願いは、「温故知新の精神を、ふるさと大垣のみなさんに伝えたい。また、伝統文化のすばらしさを鑑賞してほしい。」というものです。

もう一つは、大垣城の内部改装に着手されたことです。経済不況の折に、こうした文化施設への配慮には、かなりの決断と将来への展望が伺えます。

そもそも大垣城は十万石城下町のシンボルで、そびえ立つ天守閣には、巨鹿城(きよらくじょう)という別呼や大きくて立派という意味をこめて、麋城(びじょう)と愛称されています。昭和11年(1936)には、国宝に指定され、郷土博物館として親しまれてきましたが、昭和20年(1945)7月29日、太平洋戦争の空襲で惜しくも焼失しました。その後、大垣城再建の気運が高まり、昭和34年(1959)4月外観は昔そのままの容姿で完工し、今日に至っています。ミレニアム2000年の一昨年は天下分け目の関ヶ原合戦後400年の節目にあたり、この城が西軍の本陣であった意味合いをふまえて“決戦関ヶ原大垣博”のメイン会場となり、会期中におよそ75万人の入場者を数えることができました。このイベントが成功裏に終了した背景には、大垣市の活性化

を図ろうとする市民のエネルギーを随所で垣間みることができました。

三つ目は、大垣城のすぐ西隣りにある大垣市郷土館の存在です。この館は大垣の礎を築いてくれた戸田公の入城350年の記念事業として建設された文化施設です。開館後10数年を数えますが、この土地は、大垣藩最後の家老、戸田鋭之助氏の屋敷跡で、建物の正門及び船板塀は当時のもので大垣市指定重要文化財で、往時を偲ぶことができます。

また、展示施設は戸田公顕彰室、郷土美術室、郷土歴史室、玄関ロビー、画廊などがあり、歴代藩主戸田公の治績の顕彰をはじめ、大橋翠石の猛虎図六曲金屏風など郷土大垣の誇りであります先賢の作品を紹介したり、現在ご活躍中の郷土作家や研究者による作品発表、展示など幅広く利用され、地域の文化、教育、芸術の向上に寄与しています。

このたび、岐阜、滋賀、三重、福井の四県による『日本まんなか共和国』の第一回文化首都に大垣市が決定されました。大垣市は地理的にも四県の中心にあり、歴史的にも他の三県と産業、文化面などの交流が盛んであることが理由のようです。市長のビジョンと相俟って文化の薫り高い大垣市づくりに絶好のチャンス到来という感じがいたします。

最後に、教育改革が叫ばれ、その目玉となる“完全学校週五日制”の実施が目前に迫っています。特に、総合的な学習が位置づけられ、真に生きる力をつけさせるための方策が論じられています。地域、学校、家庭の連携を密にして、文化施設等を媒介にした学習方法を身につけ自主性のある子どもづくりが今後の課題のように思われます。貴会が県の文化的リーダーとして、指導力を発揮されることを期待しております。

第49回全国博物館大会報告

## 「博物館はいかに社会公共の利益に寄与できるか」

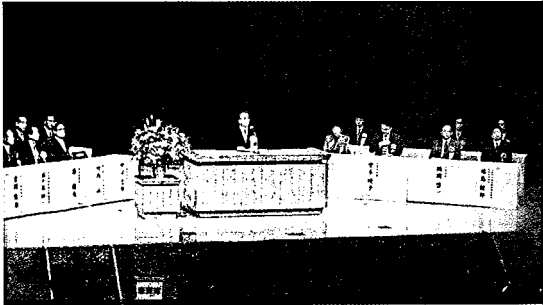
～より幅広い人々の支援が得られる博物館を目指して～

日時：平成13年11月15日(木)～16日(金)

会場：千葉市 千葉県教育会館

本年度の全国博物館大会は、11月15日から2日間、千葉市で開催されました。

開会式で(財)日本博物館協会中川志郎会長は、本大会が坂元弘直前会長が強く望まれていた対話と連携の博物館、理解への対話、行動への連携を基本とした「市民と共に創る新時代の博物館づくり」の第一歩となるよう期待するとの主旨の挨拶をされ、続いて文部科学大臣、千葉県知事らの祝辞がありました。また、永年勤続者44名・寄付者6名が表彰され、2名に棚橋賞が授与されました。



全体会議では、文部科学省や文化庁から、社会教育法及び学校教育法の一部を改正する法律、博物館運営の活性化・効率化に資する評価の在り方に関する調査研究事業、親しむ博物館づくり事業等の振興対策、登録美術品制度等多岐に亘る行政報告がありました。

午後からは、(1)全国博物館会議、(2)記念講演、(3)シンポジウムが開催されました。

(1)全国博物館会議では、平成13年度予算、事業について提案があり、了承されました。

(2)記念講演では、「ソフトビジネスからみた博物館のこれから」と題して、松尾修吾(元ソニーミュージックエンタテイメント会長、独立行政法人国立科学博物館監事)氏より、博物館経営について講話を拝聴しました。「これからは、十人十色ならぬ、一人で十色の時代であり、異質な意見や若者の意見を大切に、『いかに人を幸せにしようか、楽しくしようか』ということに心がける時代で、『対話と連携』を指針・教科書として博物館運営をすることが大切だ」という言葉が

印象に残りました。

(3)シンポジウムでは、司会者より、博物館は費用対効果、入館者数、入館料など量的な側面から評価される時代であるが、博物館の個性を発揮する中で市民の社会的文化的な生活の質の向上にどのように寄与できるかを考えてみたいと趣旨説明があり、パネラーからは、以下の実践報告(概要)がありました。

・博物館の社会的評価やマーケティングについて、大学と共同研究を進めて「施策としての博物館評価」を出版した。当館の個性の一つは学芸員が全ての面で主体となるので、入館者増についても学芸部で真剣に話し合われ、広報、記者発表は学芸員が行っている。

・重要伝統的建造物群の中心部にある施設で、地域や来館者の要望を吸収する中で地域の人々と共存できるよう絶えず配慮している。

・博物館はサービス業であるという心で、一人でも多くの方の科学する心を育み、当館のメッセージを体験していただけるよう努めている。また、地域の発展が入館者増に繋がるといった視点から、情報誌などを通して他館との連携にも努めている。

・入館者との心の交流、対話を重視した館の運営に努めている。親しむ博物館づくり事業は、互いに親しめる良い機会となった。

・国際交流と人材の育成を目指して設立した館であり、自信の持てる展覧会を開催することで勝負している。館を媒介としてグローバルでボーダレスな交流の場を創出することで、メンバーシップを重視した館運営に資するとともに社会に寄与したい。

第2日目は、国公立博物館と私立博物館の2つの分科会が開かれ、前日のシンポジウムの討議を基にパネラーと参加者が意見交換し、最後の全体会議では、大会決議文を採択し、来年度の開催県を代表して宮崎県総合博物館長の挨拶があり閉会した。

(岐阜県博物館学芸部長 遠藤俊治)

第51回岐阜県博物館協会会員研修会  
 「私が失敗してきたこと／博物館収蔵品  
 デジタルアーカイブ化の取り組みについて」  
 期 日：平成13年11月21日  
 13：30～16：30  
 場 所：岐阜県博物館  
 講 師：伊藤克司氏／江口健治郎氏  
 参 加：27名

岐阜県博物館ハイビジョンホールにおいて  
 会員研修会が以下の内容で開催されました。

- 研修 1 「私が失敗してきたこと」  
 講師：岐阜県歴史資料館課長補佐  
 伊藤克司氏
- 研修 2 「博物館収蔵品デジタルアーカイブ化  
 の取り組みについて」  
 講師：岐阜県博物館学芸主事  
 江口健治郎氏
- 研修 3 文化財保護センター発掘速報展  
 「いにしへの美濃と飛騨」見学

研修1では、伊藤氏が県歴史資料館におい  
 て長年調査活動をしてこられたことを振り返  
 り、失敗談等を交えた話をされました。



伊藤克司氏

研修2では、江口氏が岐阜県博物館が取り  
 組んでいる、博物館収蔵資料のデジタルアー  
 カイブ化の事業について、その概要や製作過  
 程、完成作品について、具体的な映像を通し  
 てわかりやすく説明されました。



江口健治郎氏

研修3では、岐阜県博物館特別展示室で開  
 催されている財団法人岐阜県文化財保護セン  
 ター主催の発掘速報展を担当者より解説をい  
 ただきながら、見学しました。

(機関紙委員 岐阜県博物館 古田靖志)

第91回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：「星と人の間」  
 日 時：平成14年3月3日(日)  
 13：00～14：30  
 場 所：岐阜市科学館ハイビジョンプラネット  
 講 師：岐阜天文台助手 小栗章孝氏  
 参 加：29名



今回の講座は、会場となった岐阜市科学館  
 で開催中の「春の星まつり」に伴う講演会を  
 兼ねて開催されました。

「地球の大きさを知っていますか」という  
 問いかけで講演は始まり、手の中に入ってし  
 まうような小さな地球の模型とスクリーン映  
 像を例にして、地球の大きさ、自転や公転の  
 スピード、空気の層の厚さ、地球以外の星と  
 の距離や構造の相違などについて問いかけを  
 交えながら解説をされました。以下はその要  
 旨です。

地球をリングくらいの大きさに例えると、  
 雲ができて飛行機が飛んだりするような生  
 活に密接した場所というのは皮のごく薄  
 い空間に過ぎない。飛行機を使ってごく短  
 い時間で世界一周できる現代では、思ってい  
 るよりも近いところに宇宙は広がっている。  
 ちょっとした天体望遠鏡とデジタルカメラを  
 使って天体写真が簡単に撮ることができるよ  
 うになるなど、比較的手軽に宇宙を覗くこ  
 とも可能なのである。

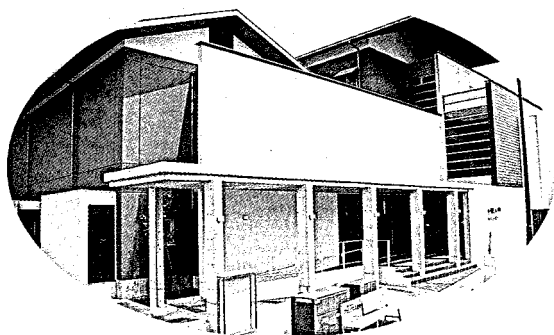
また、古くなった星は死ぬときにガスを放  
 出しながら拡大してやがて塵となるが、塵を  
 結集して誕生する新しい星の一部になるかも  
 知れない。同じように宇宙の塵を結集してで  
 きた地球上から採れるものを吸収して生き、  
 死んだ後は土に帰る私たちの身体は、地球か  
 ら借りているものであり、人と星のあいだは  
 遠く離れているようで、実は隔てるものはな  
 い。

(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 稲川由利子)

館・園紹介 No.118

## 中山道広重美術館

〒509-7201 恵那市大井町176-1  
TEL 0573-20-0522



恵那市は、江戸から数えて46番目の宿場、大井宿から発展した町です。この恵那市の駅前に、平成13年9月「中山道広重美術館」が開館しました。

恵那市では、平成4年からJR恵那駅周辺の再整備事業に着手。駅前広場や中央通り、立体駐車場、情報交流施設が相次いで完成しました。これら一連のまちづくり事業の締めくくりとして計画されたのが、この美術館です。

収蔵する美術品は、歌川（安藤）広重の浮世絵版画を中心とする約五百点。中でも広重がその円熟期に中山道を描いた「木曾海道六拾九次之内」が逸品です。このほか、広重の「東海道五十三次之内（行書東海道）」や「京都名所之内」など、主に広重と木曾街道（中山道）をテーマとしています。



収蔵美術品「木曾海道六拾九次之内 大井」

これらの収蔵品は、市内在住の浮世絵収集家田中春雄氏から恵那市に寄贈されたもので、非常に値が高く、田中コレクションとして世に知られています。美術館では、こうした美術品を毎月テーマを決めて、企画展という形で展示替えしながら、見ていただきます。



展示室1

また、浮世絵という一般的には馴染みの薄い作品を分かりやすく解説するため、浮世絵ナビルームを設けています。ナビルームでは、解説パネルや映像、彫り・摺りの道具、大井宿のジオラマなどを展示しており、浮世絵や広重について楽しみながら学んでいただけます。

このほか、70インチの大型モニターで広重と中山道の世界を見ていただいたり、パソコンで全収蔵作品を検索したりと、多くの見所を備えています。

今年、中山道は開宿400周年を迎えます。これを機に、開館1周年記念と合わせて秋には特別企画展覧会を計画しています。また、見所いっぱい通常企画展も、次のとおり開催します。この機会に、是非ご来館ください。

〈企画展予定〉

「大きな浮世絵、小さな浮世絵」

3月28日（木）～4月21日（日）

「描かれた東海道」

4月25日（木）～7月28日（日）

「浮世絵で涼む」

8月1日（木）～9月8日（日）

〈特別企画展予定〉

広重・英泉 木曾海道六拾九次之内

9月12日（木）～9月29日（日）

「武者絵でたどる木曾街道」

10月5日（土）～11月24日（日）

【交通】JR恵那駅から徒歩3分

中央自動車道恵那インターから3分

【開館時間】9時30分～17時

【休館日】月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始、展示替え臨時休館

【観覧料】大人＝500円 小中高生＝300円

（特別企画展は別料金）

（中山道広重美術館 小嶋初夫）